

ジェーアイシー旅行センターでは、この夏ユニークな旅行をいくつか行いました。一番特徴的で大変だったのは何と言っても FIFA ワールドカップ・ロシア大会をめぐる狂想曲ですが、これは別の機会に譲るとして、今回はバルト三国での合唱公演ツアー(7月)、シベリア出兵 100 年慰霊と墓参の旅(8月)をご紹介します。(編集部)



## 池辺晋一郎指揮「悪魔の飽食」合唱団バルト公演 バルトの空に響く平和の歌声 200名の合唱団がコンサート

旧日本軍の戦争犯罪をあばき過去の反省に立って未来の平和を呼びかける「悪魔の飽食」合唱団(池辺晋一郎団長ほか 230名)がバルト三国を訪れ、エストニアのタリンとリトアニアのビリニュスでコンサートを開きました。2013年のロシア公演(モスクワ、ペテルブルグ)、2015年の中国公演(ハルビン)のお手伝いをさせていただいた縁で、JICは今回のバルト公演でも旅行手配とともにコンサートの準備・運営などでも協力させていただきました。

7月20日と21日に福岡、関西、中部、成田の各空港から6つのグループに分かれてバルトに飛んだ合唱団は、7月23日(タリン)と7月27日(ビリニュス)にコンサートを開き、またそれぞれ世界文化遺産に登録されているタリン、リガ、ビリニュスの旧市街などの観光も楽しみました。

コンサートは、「ふるさと」「大地讃頌」など日本の歌の合唱(指揮:浅井敬壹・全日本合唱連盟名誉会長)、神戸の太鼓集団「輪田鼓」(田中嘉治代表)による和太鼓の演奏、そして池辺晋一郎さん指揮の混声合唱組曲「悪魔の飽食」の3部構成で、歌詞はエストニア語、リトアニア語に翻訳されて演奏と同時に字幕上映されました。タリンでもビリニュスでもほぼ満席の観客が集まり、合唱団の平和のメッセージにスタンディングオベーションで応えました。

また、合唱団はタリン郊外のクローガ強制収容所跡を訪れ

て、第二次大戦でのユダヤ人犠牲者の慰霊碑に参拝し、現地ユダヤ人協会の代表と交流集会を行いました。さらに、リトアニアではカウナスの杉原千畝記念館を訪問、「命のビザ」によって6000名のユダヤ人を救った日本人外交官・杉原千畝の偉業に触れるとともに、記念館の館長さんたちと昼食交流会を行いました(「命のビザ」とカウナスの杉原千畝記念館についてはJICインフォメーション197号をご参照ください)。

200人を超える旅行手配には大人数なりの困難があり、旅行中も小さなトラブルはいろいろありましたが、参加者の皆さんが何よりもコンサートで力いっぱい歌声を響かせることができたことと喜んでくださり、また公演ツアーを楽しんでくださったことは、手配旅行社としても嬉しい限りです。



観衆の大拍手に応える池辺晋一郎さんと合唱団員



和太鼓の迫力ある演奏が観客を魅了



コンサート後、観客を笑顔で見送る合唱団員の皆さん